

集中治療部

1 構 成 員

	平成 25 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
診療助教	2 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	2 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	7 人	

2 教員の異動状況

土井 松幸（特任准教授）（H24. 2. 1～現職）

小幡由佳子（助教）（H23. 4. 1～現職）

御室総一郎（助教）（H23. 4. 1～現職）

柳 祐樹（診療助教）（H24. 4. 1～現職）

川島 信吾（診療助教）（H23. 7. 1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 24 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	6 編	(6 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 板垣大雅*, 木倉睦人, 足立裕史, 土井松幸, 佐藤重仁: 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術後の急性腎傷害の発生頻度と特徴についての考察 - 開腹人工血管置換術との比較 -. 日本集中治療医学会雑誌 19 (3): 353-358, 2012 [0]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総 説

(4) 著 書

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 土井松幸: 聴性誘発電位 (Auditory Evoked Potential: AEP), 周術期モニタリング, 佐藤重仁・鈴木利保編, 克誠堂出版, 東京 24-44, 2012
 2. 土井松幸: 集中治療における有用性と留意点, $\alpha 2$ 受容体作動薬, 西川俊昭編, 克誠堂出版 297-317, 2012
 3. 土井松幸: 副腎機能不全, 集中治療専門医テキスト, 日本集中治療医学会編, 総合医学社 573-580, 2013
 4. 土井松幸 (共編著): ICU 感染防止ガイドライン, じほう, 2013
 5. 土井松幸: 鎮静 (鎮痛と催眠), 澄川耕二編, 徹底ガイド心臓麻酔 Q & A. 246-251, 総合医学社 2013
- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)
1. 佐野秀樹, 土井松幸: 消化管外科の患者の術前・術中・術後の輸液管理とケアは, どうしたらよいの? わかりやすい輸液管理 Q & A 岡元和文編著 275-283, 総合医学社 2012.
- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

4 特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

(万円未満四捨五入)

	平成 24 年度
(1) 文部科学省科学研究費	1 件 (110 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件 (0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件 (0 万円)

(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(110 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

科学研究助成事業 (基盤研究 (C)), 光ファイバーカテーテルを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発, 平成 23-26 年度, 研究費の総額 520 万円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	3 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	0 件
(3) 学会座長回数	0 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	4 件
(6) 一般演題発表数	4 件	

(1) 国際学会等開催・参加

- 1) 国際学会・会議等の開催
- 2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演
- 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表
- 4) 国際学会・会議等での座長
- 5) 一般発表

口頭発表

1. S Naruse, Y Kawashima, H Kato, C Ishida, K Mizuno, S Mimura, S Mimuro, Y Obata, M Doi, S Sato: C-reactive protein provides an estimate of excretion of urinary urea nitrogen. 25th Annual Congress of the European Society of Intensive Care Medicine, October 15, 2012, Lisbon (Portugal)
2. T Kimura, S Mimuro, S Naruse, M Doi, S Sato: External nasal dilator strip improve oxygenation in intensive care patients. 25th Annual Congress of the European Society of Intensive Care Medicine, October 15, 2012, Lisbon (Portugal)
3. S Naruse, Y Kawashima, H Kato, C Ishida, K Mizuno, S Mimura, S Mimuro, Y Obata, M Doi, S Sato: Evaluation of dexmedetomidine hydrochloride as a basal agent in conservative therapy for acute aortic dissection. 25th Annual Congress of the European Society of Intensive Care Medicine, October 16,

2012, Lisbon (Portugal)

4. S Mimuro, T Kimura, S Naruse, M Doi, S Sato: Use of tolvaptan in intensive care patients. 25th Annual Congress of the European Society of Intensive Care Medicine, October 16, 2012, Lisbon (Portugal)

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

土井松幸. 教育講演「集中治療のステロイド治療」第 21 回日本集中治療医学会関東甲信越地方会 8月25日, 2012年

土井松幸. 教育講演「新世代の静脈麻酔薬 Remimazolam」第 19 回日本静脈麻酔学会 9月29日, 2012年

土井松幸. 教育講演「相対的副腎機能不全の診断と治療」第 40 回日本集中治療医学会学術集会 2月28日, 2013年

3) シンポジウム発表

4) 座長をした学会名

第 20 回日本集中治療医学会東海北陸地方会 6月23日, 2012年

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本集中治療医学会：評議員, 将来計画委員, COI 利益相反委員, 社会保険対策委員

日本麻酔科学会：社会保険専門部会員, 外保連検査委員

日本麻酔集中治療テクノロジー学会：評議員

日本蘇生学会：評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

3回, Journal of Anesthesia (日本)

9 共同研究の実施状況

	平成 24 年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

(1) 国際共同研究

- (2) 国内共同研究
- (3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	0 件

11 受 賞

- (1) 国際的な授賞
- (2) 外国からの授与
- (3) 国内での授賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 脳波による中枢神経障害の予後の早期予測法の検討
心肺蘇生後の脳障害の予後の早期予測を目的として、皮質脳波モニターと聴性誘発電位モニターの比較試験を実施した。
2. 重症患者での血液ブドウ糖濃度連続測定を目指して、光テクノロジーを応用する方法と皮下組織のブドウ糖濃度測定を応用する方法の2つの研究を実施した。

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. 聴性誘発電位モニターは、麻酔深度定量法として長く研究を続けてきた測定法の脳障害予後判定への応用である。
2. 光テクノロジーを用いた血中微量物質定量法の研究成果を基礎にして、ブドウ糖濃度測定法へ応用した。

15 新聞，雑誌等による報道